

⑤ アウトリーチ活動

◎work◎life◎
balance innovation

⑤-1 | 合同シンポジウム

平成21年度 女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム

テーマ：女性研究者支援の新時代を迎えて

日時：平成21年11月25日（水）・26日（木）

場所：日本学会館 2階大講堂

参加報告機関：

「女性研究者支援モデル育成」事業

平成19年度採択機関（10機関）

平成20年度採択機関（13機関）

平成21年度採択機関（12機関）

「女性研究者養成システム改革加速」事業

平成21年度採択機関（5機関）

ポスターセッション発表者：坂無淳

取組み報告：山形大学「山形ワークライフバランス・イノベーション」

発表者：木村松子



平成22年度 女性研究者支援システム改革プログラム事業合同シンポジウム

テーマ：未来を築く女性研究者の飛翔に向けて

日時：平成22年10月5日（火）・6日（水）

場所：京都大学百周年時計台記念館

百周年記念ホール／国際交流ホール

参加機関：

「女性研究者支援モデル育成」事業

平成20年度採択機関（13機関）

平成21年度採択機関（12機関）

平成22年度採択機関（10機関）

「女性研究者養成システム改革加速」事業

平成21年度採択機関（5機関）

平成22年度採択機関（7機関）

ポスターディスカッション発表者：坂無淳

ROUND POSTERS（グループ討議）参加：坂無淳



平成23年度 女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム

テーマ：女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～

日時：平成23年11月1日（火）・2日（水）

場所：筑波大学東京キャンパス文教校舎

参加機関：採択機関

北海道・東北グループ（9機関）

関東グループⅠ（8機関）

関東グループⅡ（8機関）

東海・関東グループ（8機関）

関西・中国グループ（10機関）

四国・九州グループ（9機関）

文部科学省科学技術人材育成費補助事業
女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム
女性研究者支援に向けた
持続可能な取組の実現
～「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へ～

日時 平成23年 11/1(火)・2(水) 場所 筑波大学 東京キャンパス文教校舎

11/1(火) 午前の部 グループディスカッション (採択機関対象)
13:30 開会挨拶 筑波大学長 山田信博
13:45 来賓挨拶 内閣府男女共同参画局長 岡島敦子 氏
14:15 施策の説明 文部科学省科学技術・学術政策局長 基礎政策課長 板倉周一郎 氏(予定)
14:15 成果発表 各グループの報告
17:10 コメント 独立行政法人科学技術振興機構
閉会挨拶 科学技術システム改革事業プログラム主管 山村康子 氏
筑波大学副学長・理事 (男女共同参画担当) 鈴木久敏

11/2(水) 9:30 開始
効果的な取組事例発表
12:05 閉会挨拶 筑波大学男女共同参画推進室長 吉瀬泉子

サイドイベント (参加機関自由企画)
13:15 テーマ別事例発表および情報交流会
学童保育、病児保育、ポストキャリア支援、ネットワーキングなど
講評 独立行政法人科学技術振興機構
科学技術システム改革事業推進室長 塩満典子 氏
17:00 終了

お問合せ 女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム事務局 (筑波大学男女共同参画推進室)
TEL: 029-853-8504
E-mail: geo@un.tsukuba.ac.jp

場所 筑波大学 東京キャンパス文教校舎 (東京都文京区大塚3-29-1)
東京メトロ丸ノ内線
○茗荷谷駅 1番出口より、徒歩3分

グループディスカッション：北海道・東北グループ

秋田大学「大学間連携と女性研究者支援in秋田」

岩手大学「共生の時代を拓く、いわて女性研究者支援」

金沢大学「やる気に応えます金沢大学女性研究者支援」

東北大学「杜の都女性科学者ハードリング支援事業杜の都ジャンプアップ事業for2013【加速】」

富山大学「富山循環型女性研究者育成システムの構築」

新潟大学「キャンパスシッターによる育成・支援プラン」

弘前大学「つがるルネッサンス！地域でつなぐ女性人才」

北海道大学「輝け、女性研究者！活かす・育てる・支えるプランin北大輝け、女性研究者！

根を張れ、花咲け、実を結べ@北大【加速】」

山形大学「山形ワークライフバランス・イノベーション」

グループディスカッション参加者：幅崎麻紀子

山形大学「山形ワークライフバランス・イノベーション」

山形大学は、平成 20 年 11 月に男女共同参画推進準備室を立ち上げ、男女共同参画および女性研究者支援の検討を開始した。本事業の 2 年目である 22 年度には、男女共同参画推進委員会に各学部の副学部長を含めるよう規程を改正し推進力を高めた。全学的な女性教員採用数値目標などのポジティブアクションを取り入れた「山形大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、基本計画に基づいて各部局における推進組織を設置するなど全学体制を一層整備した。

【山形大学の女性研究者の現状】

平成 23 年 5 月現在の女性教員比率は 13.7%で、平成 21 年度の 13.1%からは若干増加したものの、平成 25 年度までに 15%という目標に向けて鋭意努力しているところである。採用比率に関しては全学で 20%を目標とし、平成 21 年度は 21.4%を達成したが平成 22 年度は 17.2%であった。

これまで女性教員比率が低かった理・工・農学部では女性教員採用に積極的な姿勢を示し、平成 20 年度に工学部で 1 人（20 年ぶり）、平成 21 年度に農学部で 1 人（6 年ぶり）、平成 22 年度に理学部で 1 人（8 年ぶり）の採用があり、平成 21 年度と比べ平成 23 年度の女性教員比率は、理学部が 4.1%から 5.3%に、工学部が 3.0%から 3.1%に、農学部が 6.6%から 9.1%に増加した。

【女性研究者支援の主な取組内容】

① 意識改革

- ・国際シンポジウム「女性研究者の育成と支援」を開催し学内外から約 130 人の参加を得た。郷通子氏（元お茶の水女子大学学長）・キャロライン・ケイン氏（カリフォルニア大学バークレー校名誉教授）の特別講演を受けて活発な質疑応答が行われた。
- ・全教職員と大学院生 3,863 人を対象にアンケート調査を行った。ワークライフバランスの実現が困難な現状への不満はあるが、男女共同参画推進室の取組についての認知度は高まっている。
- ・学長・学部長と女性研究者との懇談会、管理職セミナー、男女共同参画フェスタを実施した。

② 研究と育児等の両立支援

- ・「託児サポーター制度」（21 年度開始）を改善し、22 年度は託児時間を 13~20 時までに拡大しパンフレットも刷新した。年度末までに延べ子ども数 72 人、225.5 時間の利用があった。
- ・子育て・介護中あるいは 2 世帯以上の生計を営む女性研究者を対象とした研究継続支援員制度、若手女性研究者を支援するメンター制度、学外から業務の一部が行えるユビキタス・ワーキング・システムを開始し好評を得た。研究継続支援員制度は 23 年度 5 月末までに 18 人が利用した。
- ・パンフレット「出産・子育て・介護に関する制度」の作成・配布、相談員の巡回を実施した。

③ 女性研究者裾野拡大

- ・女子高生、大学生向けセミナーを 4 学部で計 5 回開催し延べ約 300 人が参加した。
- ・ジェンダー関連授業の増設と学内外の女性による講義「ウーマン・オブ・ヤマガタ」を開講した。「ウーマン・オブ・ヤマガタ」講義録を小冊子にまとめ、県内高等学校・大学等に配付した。

④ 外部評価

- ・アドバイザーボードを 22 年度は 2 回開催し、3 人の有識者より評価とアドバイスを得た。「全学の推進体制整備は評価される。今後は各部局での具現化が課題である。」という指摘を受けた。

【今後の課題】


- ・ワークライフバランスの実現に向けた意識改革の推進と両立支援を一層進めていく。
- ・事業終了後の支援の継続を検討すると共に、地域や近隣大学等との連携を図っていく。

【連絡先】 山形大学 男女共同参画推進室 室長 北野通世

TEL:023-628-4937 FAX:023-628-4014 E-mail:danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

URL:http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/

ポスター：




文部科学省 科学技術人材育成費補助金
女性研究者研究活動支援事業(女性研究者支援モデル育成)

山形ワークライフバランスイノベーション

国立大学法人 山形大学
男女共同参画推進室

〒990-8560 山形市小白川町1-4-12
電話番号: 023-628-4937/4938/4939
E-mail: danjo@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/



1. 女性研究者割合の現状と数値目標

女性研究者の割合(%)

年度	理学部	工学部	農学部	大学全体
H19年度	11.9	9.1	2.7	1.3
H20年度	12.0	6.3	2.6	1.2
H21年度	12.4	6.3	2.7	1.2
H22年度	13.1	6.6	4.1	3.0
H23年度	13.1	6.5	4.0	2.7
H24年度	13.7	9.1	5.3	3.1




数値目標：『山形大学男女共同参画基本計画』

- ①女性教員の採用比率を、当面、全体として20% (「国立大学協会」の提言) 以上とする。
- ②平成25年度までに、女性教員の比率を現在の13.1%(平成21年度)から15%まで引き上げる。将来的には、25%まで引き上げる。

2. 意識改革

☆国際シンポジウム 「女性研究者の育成と支援」


“The 3rd symposium on Gender Equality: Toward Encouraging Women in Academic Career” (平成22年11月12日)

講演者 横根・システム研究棟 棟理事 前お茶の水女子大学 学長による特別講演 I
キャロライン・ケイン UCバークレー校 分子・細胞生物学部 名誉教授による特別講演 II

☆学長・学部長と女性研究者との懇談会

女性研究者の状況を周囲が理解するため、またワークライフバランス実現の意見交換のため、学長・学部長と女性研究者等との懇談会を各学部で実施(平成22年度延べ参加人数：227名)



工学部(講演会・懇談会・懇親会) 人文学部(講演会・懇談会) 農学部(懇談会・指定討論・自由討論)
理学部・基盤教育院(懇談会) 地域教育文化学部(懇談会・懇親会) 農学部(懇談会)

3. 研究と育児等の両立支援

☆託児サポーター制度

託児サポーター研修を受講した託児サポーター(本学の学生)が、大学内で教職員・学生の子どもを預かる制度

＜託児サポートの流れ＞


- 子育て中の山形大学教職員・学生が、「託児サポート制度」に登録。
- 託児希望日の9日前までに、託児を依頼。
- 大学内の「ニコニコ託児ルーム」で、山形大学が認定した託児サポーターが、13:00～20:00まで、教職員・学生の子どもを預かる。

【託児サポーター登録者数】(平成23年2月現在)

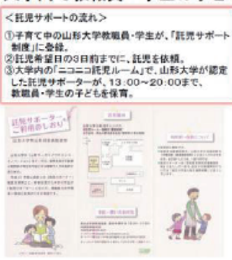
21年度登録: 23名(女性20名、男性3名)
22年度登録: 16名(女性14名、男性2名)

【平成23年度利用実績】

延べ利用時間: 225.5時間
延べ利用者数: 72人
子ども一人あたりの平均利用回数: 4.9回



託児実習中の託児サポーターの学生たち
協力機関: NPO法人やまがた育児サークルランド



☆研究継続支援員制度

出産・育児・介護等により、十分な研究活動を行うことができない女性研究者に、「研究継続支援員」を配置し、研究活動の継続を支援する制度

【支援対象者】

本学の常勤研究者(教員・後期博士課程学生・ポストドクター)を主として、

- 妊娠中、又は小学生未満までの子育て中の者
- 妻介護認定を受けている教員(再婚・別居)を介護している者
- 数地域の場合により、2親帯以上の生活計画などによる者
- その他、上記理由に該当する者

【利用実績】

平成23年5月末までに、18名(延べ人数)の研究者が利用

【支援内容】

① 業務の軽減(業務の分担や事務的業務の代行、研究費の申請代行、論文の査読代行など)
② 業務の代行(事務的業務の代行、研究費の申請代行、論文の査読代行など)
③ 業務の軽減(業務の分担や事務的業務の代行、研究費の申請代行、論文の査読代行など)
④ 業務の代行(事務的業務の代行、研究費の申請代行、論文の査読代行など)



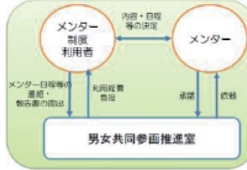
【利用実績】

平成23年5月末までに、18名(延べ人数)の研究者が利用



☆メンター制度

身近に相談者のいない女性の若手研究者に、メンターとの相談を支援する制度



メンター 制度 利用者


メンター(指導者) 相談 依頼 助言 助言 依頼 相談

男女共同参画推進室

学内メンター 講習会の開催

☆その他の両立支援

- ①ユビキタスワーキングシステム: 学外から学内ホームページの閲覧と入力を一部可能とするシステム
- ②ノートPCの貸出: 育児・介護中等の女性研究者へのノートPCとWEBカメラの貸出
- ③就業規則の周知徹底: 制度紹介パンフレットを全職員へ配付



4. 女性研究者裾野拡大のイベント

全学に裾野拡大セミナーの開催を呼びかけ、理学部2回、農学部1回、人文学部1回、工学部1回の合計5回のセミナーを開催(平成22年度)



「女性研究者の裾野拡大のための公開講座及びハイレベルディスカッション・ナノプラントン研究について」の様子(参加者: 高校生、実務、理学部)



「次世代を担う女性研究者による未来学問～元気な女子が世界を元気に～」実践の様子(参加者: 高校生、実務、理学部)



その他、詳細は山形大学男女共同参画推進室までご連絡下さい。

⑤-2 | 他機関での活動と連携

独立行政法人国立女性教育会館事業

1

名称：男女共同参画のための研修と実践の交流推進フォーラム（NWECフォーラム）

日時：平成22年8月27日15：30－17：30

場所：国立女性教育会館

内容：ワークショップNo.55「大学における男女共同参画意識の醸成」

発表者：島根大学 男女共同参画推進室

筑波大学 男女共同参画推進室

山形大学 男女共同参画推進室 幅崎麻紀子・坂無淳

参加人数：大学関係者、一般参加者 約30人

2

名称：男女共同参画のための研修と実践の交流推進フォーラム（NWECフォーラム）

日時：平成23年10月22日12：30～14：30

場所：国立教育会館201研修室

内容：ワークショップ4「『女性研究者支援モデル育成事業』から『男女共同参画』へ
～事業終了後、同事業の成果を活かしていくために～」

開催趣旨：「女性研究者支援モデル育成事業」が始まり、はや6年。この間に各大学・研究機関は、環境整備や意識改革など、様々な「女性研究者支援」に取り組んできた。そしてこの事業を終えつつある今、女性研究者支援や男女共同参画を継続していく方法を模索している。このワークショップでは、地域や採択年度の異なる、国公立の4大学の取組を紹介する。そして、この「女性研究者支援」の成果を活かして、いかに大学の中に根ざし、継続していくかについて、参加者と一緒に考えていく。

発表者：静岡大学 男女共同参画推進室

長崎大学 男女共同参画推進センター

山形大学 男女共同参画推進室 幅崎麻紀子・坂無淳・石澤多貴子

大阪府立大学 女性研究者支援センター

参加人数：大学関係者、一般参加者 約30人



3

名称：平成23年度「大学職員のための男女共同参画推進研修」

日時：平成23年12月8日（水）～9日（金）

場所：国立女性教育会館

参加者：大学・研究機関・高等専門学校等より意思決定組織に所属する教職員88名

内容：ワークショップ（分科会2）

分科会2【大学におけるワーク・ライフ・バランス】：

参加15人（徳島大学、情報・システム研究機構、日本大学、筑波大学、岩手大学、弘前大学、岩手医科大学、福島工業高等専門学校、長岡工業高等専門学校、富山高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、熊本高等専門学校、福島大学、広島大学、山形大学）

コメンテーター：渥美由喜 内閣府男女共同参画会議 専門委員

事例①「さらに羽ばたく女性研究者たち 研究支援とワーク・ライフ・バランス
～3年間の取組報告～」

東海大学ワークライフバランス推進室、特任助教 谷 俊子

事例②「山形ワークライフバランス・イノベーション」

山形大学男女共同参画推進室チーフ・コーディネーター 木村松子

予め参加者からの「意見交換したいこと」が集約されており、それを意識したコメントや事例報告が行われた。特に、男女共同参画やワークライフバランスが女性だけの問題として矮小化されやすことに對して、男性の参加の促進や育児休業取得の促進について成功例を聞きたいという意見があった。

山形大学の取組の中で、聞き取り巡回相談に関心が集まり、聞き取ったことをどのように制度設計等に繋げていくのかという質問が、実際に大学で相談業務に携わっている方から出された。

これから男女共同参画推進に取り組むという機関からの参加者が多く、それぞれが大学・組織に持ち帰って生かせる実践的な意見交換とネットワーク作りの機会となった。

7 コース別ワークショップ
分科会2【大学におけるワーク・ライフ・バランス】
事例② 「山形ワークライフバランス・イノベーション」
山形大学男女共同参画推進室
チーフ・コーディネーター 准教授
木村 松子

1 はじめに

山形大学教職員の女性比率（平成23年度）は、職員（事務系・技術系）30.6%、教員13.7%で、30歳以下の若い職員の場合、女性は過半数となっている。妊娠・出産・育児・介護等を抱える教職員が常にいることが当たり前になってきており、それに対応していける経営改革「ワークライフバランス・イノベーション」が必須である。また、その改革が行われなければ、低迷している女性教員比率の向上も望めない。

そこで、平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」の採択を受けたことを契機に以下のような改革を行っている。

全ての取組について目覚ましい成果が上がっているというわけではないが、この間、組織改革について学んだこと、成果や課題をお伝えしたい。

2 具体的な取組

- ・管理職研修の実施。「ワークライフバランスを実現するために」49名参加
- ・医学部キャンパス保育園での24時間保育に加え、小白川キャンパスでの託児サポーター制度による無料の一時預かり（13:00～20:00）の実施
- ・女性研究者の声を聴く「学長・学部長と女性研究者との懇談会」の全学部等での実施
- ・育児期、介護期等の女性研究者のための研究継続支援員制度の実施
- ・全女性研究者（教員・ポストドク・博士後期課程院生）対象の巡回相談

3 取組の中で学んだことや成果、課題

- ・性別役割分担意識は根深く、日常の言動の中に現れる。学長のリーダーシップとジェンダー主流化が必要。
- ・各学部を巻き込むには「基本計画」等を策定し、各学部の取組を決めておく。実施後はニュースレター等での広報を怠らない。
- ・「女性」や「女性の声」の可視化と対応策の推進によってワークライフバランスへの注目と要求が生まれる。
- ・巡回・電話相談ではアンケート調査では現れてこない問題の把握ができる。

4 おわりに

学びやすく働きやすい環境づくりと連携に向けて男女共同参画シンポジウム参加者一同による山形宣言（平成23年11月11日）を発表した。今後は、自組織の改革と共に、県内の高等教育機関や地域社会との連携を進めていきたいと考えている。

山形県男女共同参画センター・チェリアとの連携

山形県男女共同参画センター（愛称チェリア）は、山形県の男女共同参画社会づくりを進めるための拠点施設として、平成13年に遊学館（山形市緑町）内にオープンした施設である。同センターは、男女共同参画社会づくりの推進を目的とする団体・グループの活動の場であるだけでなく、団体間の交流や県民の幅広いネットワークづくりを目的として毎年、「チェリア・フェスティバル」を開催している。

山形大学男女共同参画推進室は、同センター及び県内の団体等と連携するため、平成22年度から登録団体となり、交流・情報交換・フェスティバル参加等を行っている。現在、県内の登録団体は68団体となっている。また、学生対象のワークショップ開催など相互の連携を進めている。

連携の経過

平成22年	
1.28 (木)	山形県男女共同参画センター団体登録決定
3.13 (土)	平成21年度チェリア登録団体ネットワーク会議参加
5.29 (土)	平成22年度チェリア・フェスティバル第1回実行委員会参加
6.22 (火)	山形大学男女共同参画フェスタにパネル「メディアウォッチ」借用
7.31 (土)	第2回実行委員会参加
7.7 (水)	山形大学基盤教育「ジェンダーの社会学」(坂無淳助教担当) チェリア塾マスターコース受講生を招いてのワークショップ 「男女のライフヒストリーにみるジェンダー役割」を開催
10.2 (土)	第3回実行委員会参加
10.17 (日)	チェリア開設10周年「チェリア・フェスティバル山形2010 すすめよう・共に未来へ・ワークライフバランス」に展示参加
12.4 (土)	第4回実行委員会参加
12.14 (火)	山形大学基盤教育「ウーマン・オブ・ヤマガタ」(木村松子准教授担当) チェリア企画係長 齋藤由美子氏を招いての講義と対話 「誰もが生きやすい社会を」を開催
平成23年	
3.5 (土)	平成22年度チェリア登録団体ネットワーク会議参加
5.14 (土)	被災地支援のあり方についてチェリア円卓会議参加
6.21 (火)	山形大学男女共同参画フェスタにパネル「女性差別撤廃条約」借用
6.25 (土)	平成23年度チェリア・フェスティバル第1回実行委員会参加
6.29 (水)	山形大学基盤教育「男女について議論する」(坂無淳助教担当) チェリア塾認定ファシリテーターを招いてのワークショップ 「ジェンダークイズ、思い込みを探す」を開催
7.6 (水)	山形大学基盤教育「ジェンダーの文化人類学」(幅崎麻紀子助教担当) チェリア塾認定ファシリテーターを招いてのワークショップ 「山大生が考える大震災3.11から118日過ぎて今」を開催
7.30 (土)	第2回実行委員会参加
10.1 (土)	第3回実行委員会参加
10.16 (日)	「チェリア・フェスティバル山形2011 すすめよう・共に未来へ・ワークライフバランス」に展示参加
12.3 (土)	第4回実行委員会参加

平成23年度

山形県男女共同参画センター機関誌「チェリア」掲載 vol.30 2011.Spring.p.7.

チェリアの仲間になりませんか

チェリアでは団体・グループ登録制度を設けています。随時受付中。詳しくはチェリアまで。

山形大学 男女共同参画推進室

チーフコーディネーター・准教授/木村松子
TEL/023-628-4937

山形大学の決意
山形大学においても女性の教員や管理職の比率は高いとはいえません。「男女共同参画社会基本法」の理念を踏まえ、性別にかかわらず個性と能力を發揮できる大学作りを重要課題と考え、そのためのワークライフバランスの実現を宣言したのが平成二十二年二月です。翌月、男女共同参画推進室を設置し、学長をリーダーとする委員会も組織されました。**すべての学生と教職員のために**委員会の決定を受けて具体的な施策に取り組むのが推進室です。教職員の意識改革のためのセミナー開催、子育て期の研究者支援のための託児ルーム開設や相談事業、山形で活躍する女性の経験から学ぶ「ワーマンオブヤマガタ」の授業開講、女性研究者裾野拡大のための女子高校生

ワークライフバランス の実現を目指して

多様な人材による多様な視点に基づく教育研究を推進し社会に貢献していくことが大学の使命です。学外の諸機関とも一層連携を進めながら男女共に働きやすい職場を実現し、多様性を確保し、その中で将来の社会を創る学生を育てていきたいものと考えています。

未来に向かつて
向けるセミナーなどを進めてきました。昨年六月には、女性教員を増やすためのポジティブアクションを含めた基本計画（十ヶ年計画）を策定し、全学をあげて男女共同参画の推進に取り組んでいます。



平成22年2月「男女共同参画シンポジウム」開催

チェリア・フェスティバル山形2011に参加

タイトル：山形大学ワークライフバランス・イノベーション！

目的：山形大学の男女共同参画やワークライフバランスの実現に向けた取組を紹介する。

大学や大学院への進学や学びの情報を提供する。

日時：平成23年10月16日（日）10：00～16：00

場所：遊学館（山形県山形市）

参加者：3,647人、山形大学展示コーナーへは24人（女性16人・男性8人）が訪れた。

内容：パネル展示と説明、相談への対応

- 1 意識改革に向けた取組
- 2 ワークライフバランスを可能にする職場作り
- 3 女性研究者の裾野拡大
- 4 社会人入学やセミナー等の紹介

事前に打合せを行い、各種資料を読んで準備した学生スタッフも一緒に対応することで、より声をかけられやすい雰囲気が出ていた。



対応する学生スタッフ

山形市男女共同参画センター・ファーラの連携

山形市男女共同参画センター（愛称ファーラ）は、山形市民の男女共同参画に関する学習、相談、情報提供、交流等の拠点施設となっている。平成8年に女性団体の強い要望によって「女性センター」として開館し、平成15年に現在の名称に変更した。施設は、山形市総合福祉センター（山形市城西町）内にある。

同センターは、平成23年に15周年を迎えることから11月12日に記念事業を実施するに当たり、市民による実行委員会を組織し、山形大学男女共同参画推進室からも技術補佐員が委員として参画した。

また、ファーラ主催の学習事業に山形大学男女共同参画推進室員が講師を務めるなど連携を進めている。

山形市男女共同参画情報誌「ぶら～な」掲載 vol.37September2010,p.4.

市民の中から公募で選ばれた編集協力員の方々の訪問を受けて、坂無淳サブ・コーディネーターがインタビューに答えた。

地域で活躍する男性として、室の中の唯一の男性スタッフであり、ジェンダー研究者である坂無淳コーディネーターに関心と注目が集まっているということである。

また、男女共同参画推進室が学長の元に組織されていること、まだまだ女性研究者が少ないため、意識改革や託児サポート、巡回相談や女子高校生向けセミナーなどの取組を行っていることが紹介された。

山形大学男女共同参画推進室 **坂無 淳さん**

～女性研究者を増やして大学の活性化を～

山形大学の部別女性教員の割合
(2009年10月1日現在)

学部	女性	男性
合計	13.9% (110人)	86.7% (715人)
人文学部	14.0% (13人)	86% (60人)
経済学部	17.2% (17人)	82.3% (79人)
理学部	5.9% (5人)	94.1% (73人)
医学部	20.7% (60人)	79.3% (230人)
歯学部	28.8% (17人)	71.2% (41人)
薬学部	15% (17人)	85.6% (64人)
その他	25.2% (6人)	75.0% (18人)

●学長直轄の組織として
日本では女性の研究者がとて少ないといわれています。山大も例外ではない中、優秀な人材を確保し、競争力のある大学として活性化を図るため、平成21年2月に学長直轄の組織として男女共同参画推進室(室長 北野通博理事)が設置されました。その後、文部科学省の事業に採択され、私もスタッフとして昨年8月、山形にやってきました。

●まだまだ少ない女性研究者
上記のとおり、全学における女性教員の割合は13.3%と低い現状です。山大全教職員のアングレートの成果をみても、共働きでも家事の負担を女性に、またストレスを感じている女性の方が多くなっています。女性の働きやすい環境を作るためには、男性も適切なワークライフバランスの推進が必要ですね。

●どんな取り組みをしていますか?
昨年は、まずは意識改革からということで、管理職向けのセミナーを開催しました。他にも「子育て世代のみなさん」の協力を得て学生の託児サポートを養成し、キャンパス内に託児ルームを設置したり、女性教員に対する巡回相談や種々のアンケート調査を実施したりしています。一般の方向けには、公開シンポジウムを開催したり、女子中・高校生向けに理系を卒業した女性の就職先を紹介するようなセミナー等を開催した



PROFILE
山形大学男女共同参画推進室 助教、サブコーディネーター、専門は社会学とジェンダー(※1)研究。北海道旭川市出身。29歳。
■ <http://junsakanashi.blogspot.com/>

山形大学が、平成21年度 科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業(※2)に「山形ワークライフバランス・イノベーション」の課題名で応募し、採択された。山形大学の男女共同参画に向けた取り組みが昨年スタートし、今、大いに盛り上がりを見せている。室の中の唯一の男性スタッフとして活躍されている坂無先生にお話を伺った。

共同参画 について うちがいました。

●男女のちがいを「ジェンダー」
「男性のなごきなせ」論を研究することよく聞かれますが、興味をもった一番の要因は私の家族にあると思います。私には妹が2人いるのですが、同じ家庭で育っているのに私と妹とは環境はあまり違いませんよね。しかし、子どもの頃、周りの大人を見て男と女で働く仕事が違う傾向があり、不思議に思っていました。実際に教員は、事務職や看護職という、どちらかというと女性の多い仕事をしています。それから高校生の時に、社会学の先生の講義を聞いてジェンダーという研究分野があることを知り、大学で大学院まで進んできました。

また、「女性性」がある一方で「男性性」というものもあり、さらに興味があります。私や男性保育士さんのようないわゆる、例外の事例を調査していることは、男女共同参画の推進に大きな効果があると思います。

●ダイバーシティの発端を自覚して
山大は18日に、男女共同参画推進室本計画を策定しました。今後10年間はこの計画に基づき行動し、将来には現在13.3%である女性教員の比率を25%にまで引き上げることを目標としています。年齢や国籍、性別に限られない人材の多様性(ダイバーシティ)のある大学を目指し、全学をあげて男女共同参画を進めています。

※1 生物学的な性差のメカニズムに対して、社会学や心理学の観点から性差を研究することです。性差研究は、性差の生物学的なメカニズムや、性差の社会的なメカニズムを研究することです。性差研究は、性差の生物学的なメカニズムや、性差の社会的なメカニズムを研究することです。

山形大学 現状と戦略

- 女性教員シェア13%、博士学生シェア20% → 全国平均以下
- 少ない → 増やそう
- 知らない → 知ろう
- 見えていない → 見よう、見せよう
- 孤立困難 → 孤立可能に

・男女共同参画推進のためのルールを知らない
・強い性別意識
・家庭生活での女性への依存
・育児期にかかるストレス
・孤立を招く組織文化
・子どもとふれあう時間不足



男女共同参画推進室のスタッフの皆さん
左より、坂無淳さん、榎崎紀子さん(助教、サブコーディネーター)、木村裕子さん(スタッフ・コーディネーター、准教授)、三宅美知子さん
■ <http://www.yamagata-u.ac.jp/kenkyu/danjo/index.html>

フェアラ主催の学習事業

平成22年度女性学講座（3回連続）

テーマ：自分らしい「幸せ」とは？

第1回：

8月24日（火）10：00～12：00

「女と男どっちが幸せ？」

坂無 淳 助教

第2回：

8月31日（火）10：00～12：00

「多様な生き方を探る」

高木 直 教授

第3回：

9月10日（金）10：00～12：00

「『美と健康』とジェンダー」

幅崎麻紀子 助教

女性学講座 3回連続

自分らしい「幸せ」とは？

無料託児あり・参加費無料

8/24(火) 10:00～12:00
女と男どっちが幸せ？
 講師 山形大学男女共同参画推進室助教 坂無 淳
 会場 山形市男女共同参画センター「フェアラ」5階 視聴覚室

8/31(火) 10:00～12:00
多様な生き方を探る
 講師 山形大学地域教育文化学部教授 高木 直
 会場 山形市男女共同参画センター「フェアラ」5階 視聴覚室

9/10(金) 10:00～12:00
「美と健康」とジェンダー
 講師 山形大学男女共同参画推進室助教 幅崎 麻紀子
 会場 山形市男女共同参画センター「フェアラ」5階 視聴覚室

《申込・問い合わせ》
 山形市男女共同参画センター「フェアラ」
 ☎ 023-645-8077 (受付時間：午前9時～午後5時)

フェアラは、山形市が運営している公的施設です。広報やまたに各種事業を随時掲載しています
 〒981-8501 山形市大町1-1-1 <http://www.city.yamagata.yamagata.lg.jp/kurashi/sisetu/j.html>

平成23年度出前講座

テーマ：自分らしい幸せとは？

第1回：

10月20日（木）13：30～15：30

「多様な生き方を探る」

高木 直 教授

第2回：

10月25日（火）

「女と男どっちが幸せ？」

坂無 淳 助教

山形市男女共同参画センター開館15周年記念事業

自分らしい幸せとは？

第1弾 多様な生き方を探る

- 日時 平成23年10月20日（木）午後1時30分から午後3時30分まで
- 場所 南沼原コミュニティセンター2階研修室1及び研修室2
- 講師 高木 直 氏（山形大学地域教育文化学部教授）
- 内容 自分らしい幸せってなんだろう？いっしょに考える講座です。
- 定員 一般市民40名程度

第2弾 女と男どっちが幸せ？

- 日時 平成23年10月25日（火）午後1時30分から午後3時30分まで
- 場所 千歳コミュニティセンター1階多目的ホール
- 講師 坂無 淳 氏（山形大学男女共同参画推進室助教）
- 内容 自分らしい幸せってなんだろう？一緒に考える講座です。
- 定員 一般市民40名程度

問い合わせ先

山形市男女共同参画センター フェアラ(645-8077)までお電話ください。
 主催 山形市・山形市男女共同参画センター開館15周年記念事業実行委員会

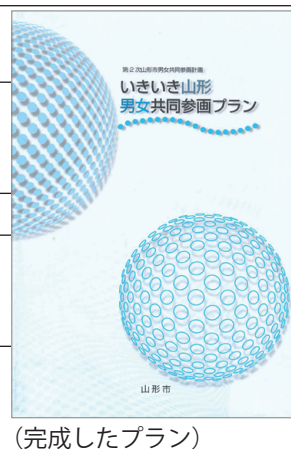
※個人情報適切に管理し、講座事務以外では使用しません。

山形市男女共同参画課との連携

「山形市男女共同参画推進協議会」（山形市における男女共同参画に係る施策の推進等に関し、市長の諮問に応じ審議する機関）の委員として、木村松子チーフ・コーディネーターが市長の委嘱を受けて参画している。平成23年3月3日、第2次山形市男女共同参画計画「いきいき山形男女共同参画プラン」の策定について山形市長に答申した。また、それぞれの事業に相互に参加し、男女共同参画及びワークライフバランスの推進に向けて連携を進めている。

連携の経過

平成22年	
4月28日（水）	第1回山形市男女共同参画推進協議会参加。委員委嘱、互選により会長に「いきいき山形男女共同参画プラン」改定の諮問を受ける。
8月9日（月）	第2回山形市男女共同参画推進協議会開催 議事：「いきいき山形男女共同参画プラン」改定について
9月1日（水）	「男女共同参画に関する作品」審査会参加
10月17日（日）	山形市男女共同参画講演会参加 もう一度あなたにワクワク～男と女 再発見～
11月24日（水）	第3回山形市男女共同参画推進協議会開催 議事：「いきいき山形男女共同参画プラン」改定について
平成23年	
2月22日（火）	第4回山形市男女共同参画推進協議会開催 議事：「いきいき山形男女共同参画プラン」改定について
3月3日（木）	第2次山形市男女共同参画計画 「いきいき山形男女共同参画プラン」の策定について山形市長に答申
5月24日（火）	第1回山形市男女共同参画推進協議会開催 議事：平成22年度事業報告、平成23年度事業計画、その他について
8月24日（水）	「男女共同参画に関する作品」審査会参加
11月7日（月）	第2回山形市男女共同参画推進協議会開催 議事：平成22年度調査報告、平成24年度事業計画、その他について
11月12日（土）	山形市男女共同参画センター開館15周年記念事業参加 ココロをつなぐ共同参画 ～思う・行う・続けよう自分らしく～



山形市男女共同参画講師派遣事業による研修会の実施

城北麵工株式会社（山形市）研修会

日時：平成23年1月21日（金）17：00～18：00

場所：パレスグランデール

テーマ：仕事と家庭の両立について

講師：木村松子チーフ・コーディネーター

参加人数：100人

